

整理番号	28-8	事務事業名	舗装補修事業		作成部署	建設部土木事務所	電話	内線760
事務区分	自治事務	法定受託事務	部長職名	齊藤順二	課長職名	高橋孝一	作成日	平成17年6月
事務事業開始年度		根拠法令等	道路法第42条					
〃 終了予定年度								
事務事業開始のきっかけ(導入当初の目的等)	経年劣化した、市道の舗装を補修する。							

1 計画(プラン)

上位施策との関連(総合計画での位置付け)	章	高い都市機能を持ち、活力にあふれるまち	(第5章)
	節	道路と交通	(第3節)
	施策	市内幹線道路・生活道路等の整備	(第1施策)
目的(ここから成果指標を導きます)	対象(誰、又は何を)	経年劣化した舗装道路	
	意図(何をねらっているのか、対象をどのような状態にしたいのか)	経年劣化した道路の舗装復旧	
手段(ここから活動指標を導きます)	市が行った(行う)事務事業の具体的な実施内容(団体補助等の場合はその補助金による団体の活動内容を記載)	16年度まで	平成13年度 市道大曲椋山線舗装補修工事外2件 A=10,810㎡ 平成14年度 市道大曲椋山線舗装補修工事外2件 A=3,720㎡ 平成15年度 市道大曲椋山線舗装補修工事外1件 A=1,985㎡ 平成16年度 市道大曲椋山線舗装補修工事 A=1,749㎡
		17年度	平成17年度 市道大曲椋山線舗装補修工事 A=1,622㎡

2 実施(ドウ)

【事業費の推移】

(単位:千円)

区 分		15年度(決算)	16年度(決算)	17年度(予算)	18年度(予定)
直接事業費	国支出金				
	道支出金				
	地方債				
	その他特財				
	一般財源	6,941	4,599	4,500	4,500
	合計	6,941	4,599	4,500	4,500
人件費(概算)	人数(年間)	0.08	0.08	0.08	0.08
	1人当り年間平均人件費	9,000	9,000	9,000	9,000
	= ×	720	720	720	720
総事業費 +		7,661	5,319	5,220	5,220

【事務事業を評価する指標(ものさし)】

指 標	指 標(算式)	指 標 値			
		15年度	16年度	17年度(目標)	18年度(目標)
活動指標 (事務事業の活動量や実績)	補修面積(㎡)	1,985㎡	1,749㎡	1,622㎡	1,622㎡
成果指標 (目的の達成度を測るものさし)	道路施設の補修は、老朽化に伴い年々増加するものであるため、達成目標を定められない。				
効率指標 (主要活動単位当たりコスト)	1事業当り評価コスト (総事業費÷補修面積)	3.8千円/㎡	3.1千円/㎡	3.2千円/㎡	3.2千円/㎡

3 評価(チェック)と改善(アクション)

事務事業を取り巻く社会環境の変化や今後の予測・他市町村の動向等	市内の多くの道路は、昭和40年代に築造されていることから、老朽化が進み早急な舗装の補修が求められている。
---------------------------------	--

【妥当性の評価と改善の方法等】

項目	判定	判定の説明や課題	改善の方法
行政関与の妥当性 【市が実施すべき事務事業ですか。市民・企業等での実施可能性はありませんか】	適切 改善の余地あり(改善の方法記入)	市道の維持管理であることから、行政の関与が妥当である。	
目的の妥当性 【社会経済情勢や市民ニーズの変化などから、設定した対象や意図は妥当ですか】	適切 改善の余地あり(改善の方法記入)	道路機能の保全であり、目的は妥当である。	
手段の妥当性 【現在の手段は適切ですか。もっと効率的で有効な手法はありませんか】	適切 改善の余地あり(改善の方法記入)	補修工事として対応するものであり、手段は適切である。	
受益者負担の妥当性 【受益者負担の適正化の余地はありませんか】	適切 改善の余地あり(改善の方法記入) 該当しない	道路管理者の責務であり、受益者の負担の余地はない。	

【有効性と効率性の評価と改善の方法】

項目	判定	判定の説明や課題	改善の方法
有効性の評価 【意図した成果は上がっていますか】	十分成果が上がっている 概ね成果が上がっている あまり成果が上がっていない 成果が上がっていない	道路舗装の老朽化の進行に対し、補修が追いついていない。	道路舗装の老朽化が進行する中、限りある予算で効率的に補修を進める。
効率性の評価 【手法は効率的ですか。コスト削減の方法はありませんか】	十分効率的 概ね効率的 やや非効率 かなり非効率	細分化されていた舗装事業を統合したことから、概ね効率的と考える。	

【事務事業担当部局内優先度】

部局で所管するすべての事務事業の中で、この事務事業の位置づけはどの程度ですか

A B C

4 総合判定と今後の方向性

【1次評価】	判定	今後の方向性や改善方法など
事務事業担当部局の総合判定 【上記3の評価と改善を踏まえ、今後の方向性についての総合判定と改善方法等を記入】	拡大・重点化する 現状のまま継続する 見直しの上で継続する 統合する(検討含む) 縮小する(検討含む) 廃止・休止する(検討含む) 終了	今後一層深刻化する市道の老朽化に対応するため、本事業を推進する。
【2次評価】	判定	今後の方向性等
行財政構造改革推進本部の総合判定	拡大・重点化する 現状のまま継続する 見直しの上で継続する 統合する(検討含む) 縮小する(検討含む) 廃止・休止する(検討含む) 終了	1次評価のとおり